

# コロナ禍における感染症対策の強化に向けて ～多用途型トリアージスペースの整備について～

会計課施設管理室

島根大学医学部では2020年度第3次補正予算による国立大学法人等施設整備事業として、2021年5月下旬より附属病院多用途型トリアージスペース整備工事に着手しています。建物は鉄骨造平屋建て(床面積180㎡)を新築し、周辺の駐車場整備を行い、9月中旬から供用開始する予定です。

この施設は自然災害や大規模事故等のトリアージに加えて、感染症流行時に罹患の有無を判断するための問診や検査、そのための待合スペース等を含め幅広く非常時に使用できるスペース(トリアージスペース)を確保し、病院が診療を継続するとともに、非常時以外においては研修室等の多用途スペースとして活用する事を目的としています。

当院では、主に感染症流行時における感染症検査の対応スペースとなることを想定し、正門東側の外来患者専用駐車場の一部を利用して、ドライブスルー方式での検査等にも対応できるよう計画しました。

建物の建設により外来患者専用駐車場の駐車台数は若干減少しますが、現在のコロナ禍においては、より多くの感染症検査を実施する事で感染拡大の防止を図り地域の皆様に安心して生活頂けるよう、地域医療の最後の砦としての役割を果たします。



## 島根大学医学部における研修会・講演会・セミナー開催情報

7月15日～8月14日

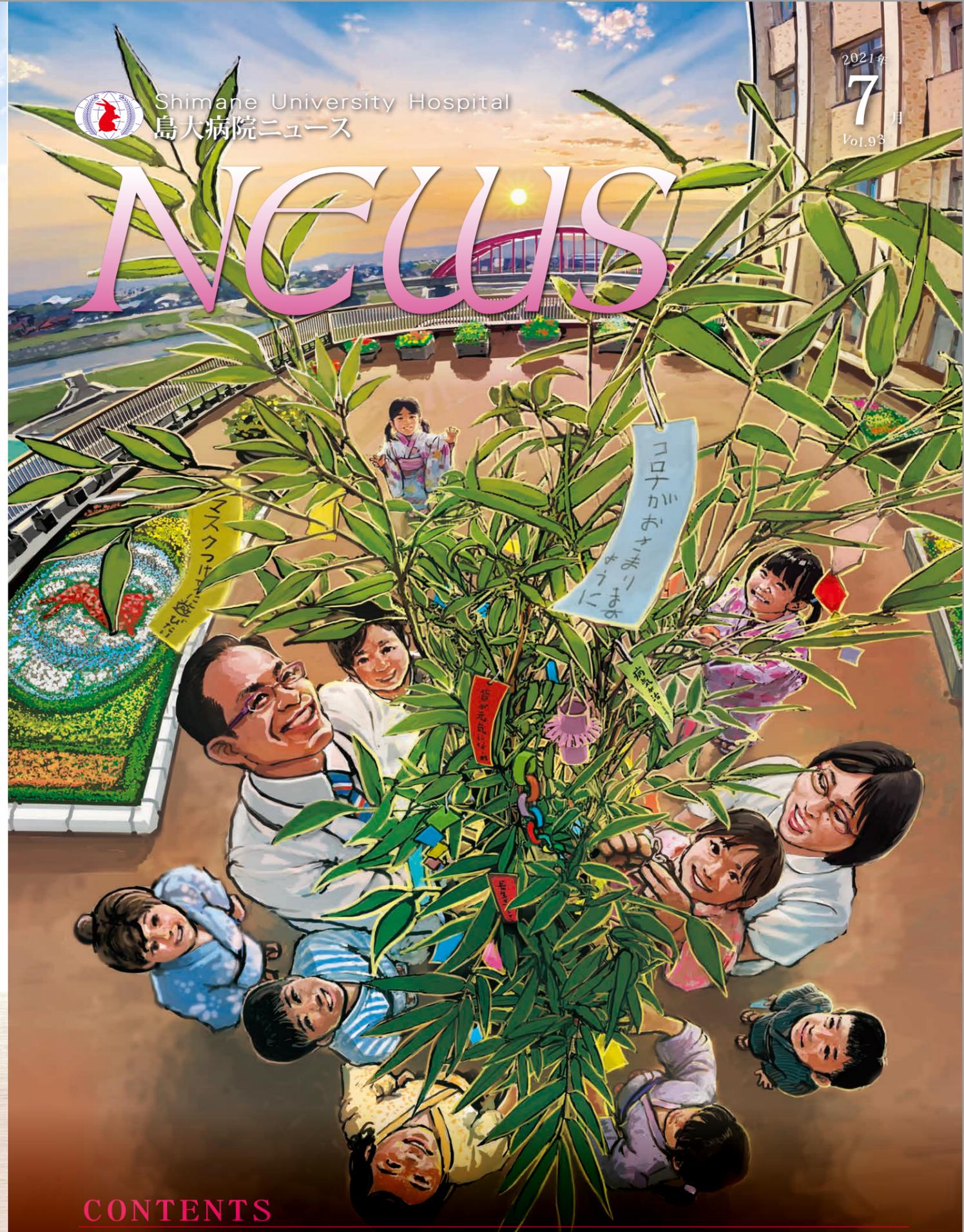
対象者: 一般 一般市民 医療 医療関係者 本学 本学教職員・学生

開催日	開催名	場所(★印 学外開催)	対象者	主催者
6/18(金)～ 9/16(木)	令和3年度 第1回肝臓病教室・家族支援講座	肝疾患相談・支援センター ホームページ上での動画配信	一般 医療	島根大学医学部附属病院 肝疾患相談・支援センター

詳細については、医学部・附属病院ホームページ【研修会・講演会・セミナー】をご覧ください。



# NEWS



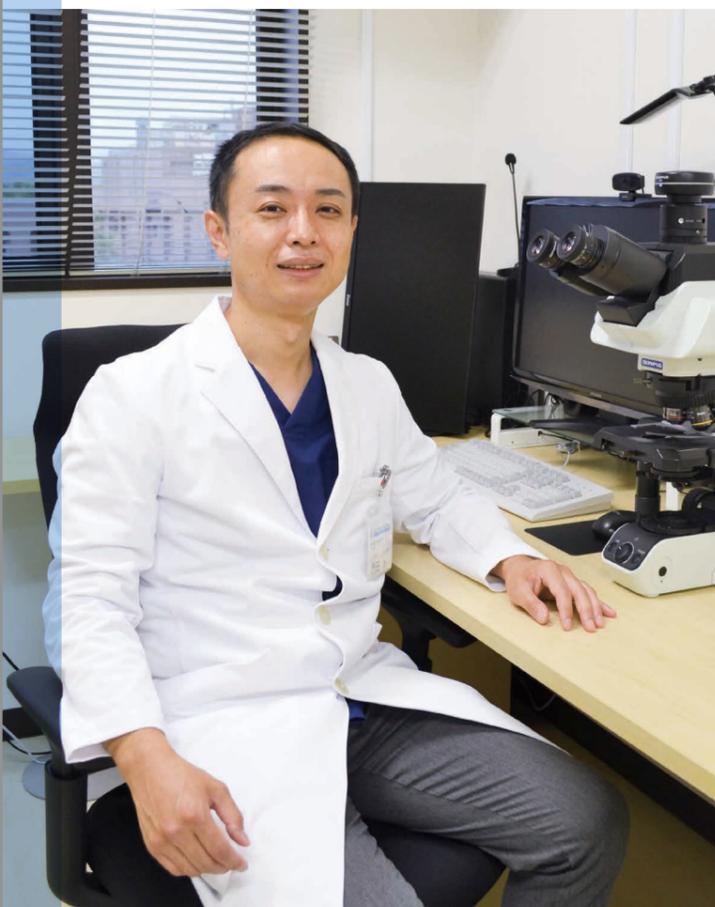
## CONTENTS

- ・病理部長就任のご挨拶
- ・OSCEの外部評価者の募集

- ・コロナ禍における感染症対策の強化に向けて  
～多用途型トリアージスペースの整備について～
- ・研修会・講演会・セミナー開催情報

# 病理部長就任のご挨拶

病理部 部長 病理診断科 診療科長 教授 かどた きゅういち  
門田 球一



2021年4月1日付で附属病院病理部部長・病理診断科診療科長(病理学講座器官病理学教授)に就任いたしました。

私は愛媛県出身で、2003年に香川医科大学を卒業し、卒後は病理学の道に進み、香川大学医学部附属病院や関連施設で病理診断の研究を積んできました。

博士号を取得後は、腫瘍の組織形態や腫瘍マーカーに基づき悪性度を解明するため臨床病理学的な研究を行ってきました。2009～2015年には、Memorial Sloan Kettering Cancer Center(ニューヨーク市)に留学し、肺癌を対象とする研究に専念し、帰国後も臨床に還元される研究を目標としています。

病理部の業務としては、病変の一部を採取する生検や摘出検体を対象とする組織診断、粘膜などから擦過し採取された細胞や剥離細胞を対象とする細胞診断、不幸にして亡くなられた患者さんの死因を究明するための病理解剖が含まれます。

近年では、患者さんごとに最適な治療法を提供するために、コンパニオン診断やがん遺伝子パネル検査が発展し、病理検体の取り扱いを含めて病理部門の役割や臨床部門との連携がさらに重要となっています。

地方では人口あたりの病理専門医数は極めて少なく、将来的な病理診断体制の維持には厳しい現状があり、島根県も例外ではありません。病理部では正確で精密な病理診断を継続するとともに、学生や研修医に病理診断学の魅力を伝え、病理医のリクルート・育成に努めてまいります。

若輩者ではございますが、誠心誠意、努力して参ります。皆さまのご指導を賜りますようお願い申し上げます。

# OSCEの外部評価者の募集

島根大学医学部OSCEディレクター かりの けんじ  
附属病院クリニカルスキルアップセンター センター長 狩野 賢二

いつも医学教育にご指導ご協力いただき、ありがとうございます。

医学生の知識・技能・態度を評価すると同時に、社会的および法的に医師でない医学生の診療参加型実習を行う妥当性を担保するため、医療系大学間共用試験実施評価機構によってCBTと臨床実習前のOSCE(Pre-CC OSCE)が2005年12月から共用試験として開始されました。



Post-CC OSCEの試験室

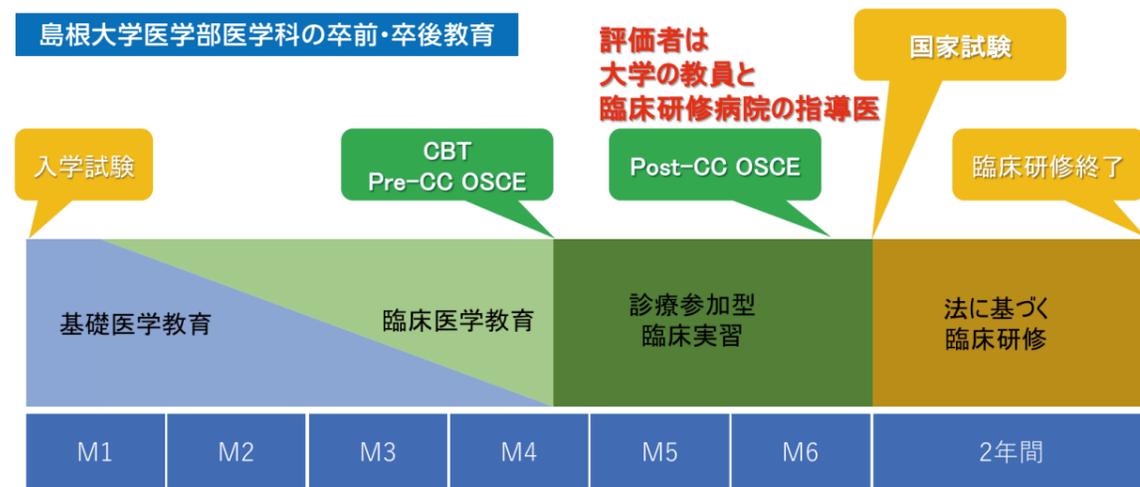
CBTは、Computer Based Testingの略号で、コンピュータを使用してプールした問題から受験生ごとにランダムに出題される医学知識の評価です。OSCEは、Objective Structured Clinical Examinationの略号で、客観的臨床能力試験の意味で実技試験を行います。

また、2020年度から卒後臨床研修を円滑に開始するために必要な臨床能力を評価するために、臨床実習後のOSCE(Post-CC OSCE)も始まっています。2020年度からどちらの試験もクリアすることが医師国家試験受験資格となっています。

現在、Pre-CC OSCEおよびPost-CC OSCEの評価者は当院に勤務する医師のみで行ってありますが、今後は客観的かつ妥当性を持った評価を行うためにも院外の先生方に評価して頂くことが必要不可欠と考えております。

将来を担う医学生が、医師として必要な知識と技能を獲得して医学部を卒業できるよう、地域の病院および診療所にご勤務の先生方にOSCEの外部評価者を担当していただけるよう、お願いする次第です。日常診療でご多用の折、大変恐縮ですが、何卒ご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。

島根大学医学部医学科の卒前・卒後教育



クリニカルスキルアップセンター ☎0853-20-2551  
ホームページ <https://www.clinicalskillup.jp/>





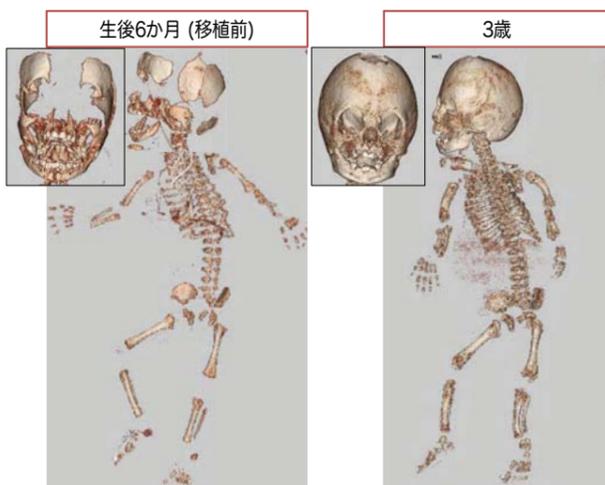
# ご報告

## 世界初の医師主導治験

### 「低ホスファターゼ症小児患者を対象とした高純度間葉系幹細胞(REC-01)移植」を開始します!

小児科 診療科長 教授 たけたに たけし  
竹谷 健

島根大学医学部小児科では、難病に対する再生医療を1つの柱にしております。今回、生まれつき骨ができない先天性骨系統疾患である、重症低ホスファターゼ症に対して、島根大学発バイオベンチャーであるPuREC(株)が開発した高純度間葉系幹細胞(REC-01)を用いた世界初の骨再生医療を医師主導治験として行います。



図

Taketani T et al. Cell Transplant 2015

これまで、私たちは、重症低ホスファターゼ症の小児患者さんに通常の間葉系幹細胞(骨を作る細胞)を移植することによって**世界で初めて全身骨の再生に成功しています(図)**。しかし、残念ながら、骨の再生が正常レベルに達するまでの改善には至りませんでした。

そこで、健康な子供たちと同じ骨を再生させることを目的として、再度基礎研究からやり直しました。その中で、PuREC(株)は極めて純度の高い間葉系幹細胞を分離する技術を開発しており、そのうち、骨への分化能の高い高純度間葉系幹細胞(REC-01)がこの疾患の骨再生に極めて有効であることを明らかにしました。その結果を元に、この度、**世界で初めてREC-01を用いた骨再生治療を開始することとなりました。**

重症低ホスファターゼ症の小児患者さんは1年間に10人も生まれませんが、REC-01の骨再生がうまくいけば、他の先天性骨系統疾患の患者さんへの治療にも応用できる可能性があります。これからも難病の患者さんに寄り添って診療・研究を行って参りますので、ご支援ご協力のほど、よろしくお願いいたします。

問合せ先 小児科 事務 TEL: 0853-20-2220



# ご報告

## 災害時にむけてのBCPとその対応について

災害医療・危機管理センター センター長 教授 わたなべ ひろあき  
渡部 広明

当院は災害拠点病院に指定されており、その指定要件である災害時および院内緊急事態時の業務継続計画(BCP)(図1)を作成し毎年改訂を行っています。BCPの改訂作業は、災害医療・危機管理センター DiMCOC(ディムコック)が中心となり院内各部署と連携して行っており、この改訂BCPに基づき毎年院内災害訓練を実施しています。



図1 当院のBCP

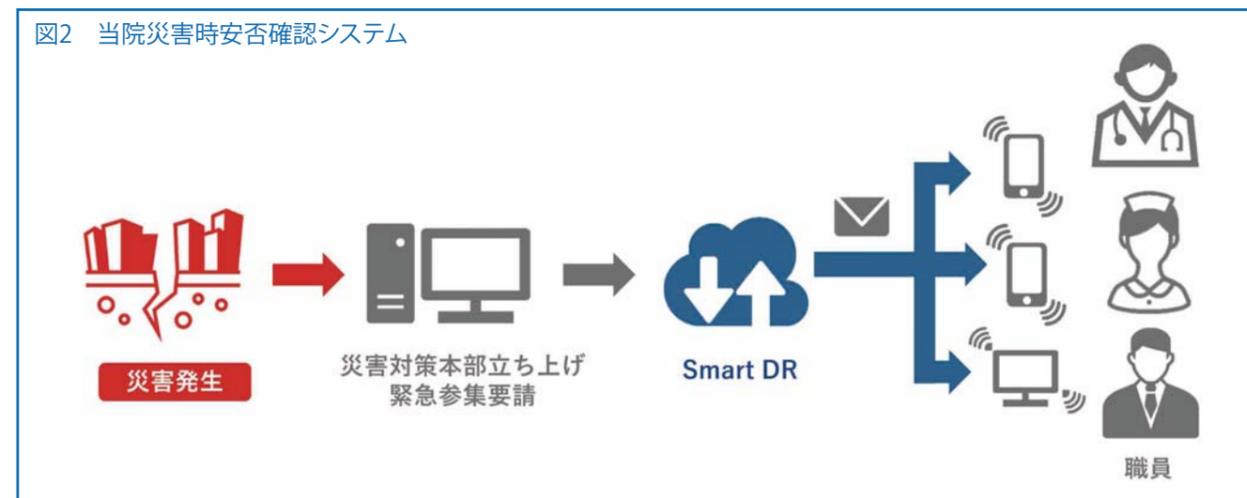
本BCPでは指揮権の空白を作らない初動対応が明記されています。職員の安否確認体制も盛り込まれており、短時間で多くの職員の安否を確認するシステムとして、Smart DR((株)SMART119社)を導入しており、自然災害時の職員安否確認、参集指示、一斉連絡等を行うことができます(図2)。

本システムで参集した職員により災害対策本部が構築され、トリアージセンターを含む現地診療調整指揮所立ち上げと被災者受入を速やかに実施できる体制としています。

本BCPは昨今のコロナ禍による感染症災害など病院機能に大きな障害をもたらすと考えられる事態にも組織で対応できる基盤が構築されています。

政府中央防災会議防災対策推進検討会議により近い将来発生すると想定されている南海トラフ地震では、太平洋岸を中心に壊滅的物的・人的被害をもたらすとされています。こうした広域災害では島根県も少なからず被害を受けるものと想定しておく必要があります。感染災害を含むあらゆる緊急事態に備え、災害時に医療が継続的に提供できる体制を目指し整備して参ります。

図2 当院災害時安否確認システム





# お知らせ

## 島根県医師会・歯科医師会会員様へ 人間ドック：PET/CT検査のご紹介

臨床検査科 診療科長 准教授 やの 矢野 彰三 しょうぞう  
放射線科 講師 くろだ 黒田 弘之 ひろゆき

当院では2種類の人間ドック事業を行っています(表)。今年度は、オプションとしてPET/CTによる「全身ドック」を開始することに致しました。

PET/CTは、PET(陽電子放出断層撮影)とCT(コンピューター断層撮影)を組み合わせた検査です。PETでは陽電子放出核種で標識された薬剤(FDG)を投与することにより生体内の“機能”を調べ、CTで病変の位置や広がりなどの“形態”を把握できますので、一度の検査でほぼ全身の腫瘍の有無、正確な位置や大きさが分かります。すなわち、PET/CTは、がんの早期発見、初期診断、転移や再発の診断に有効な検査とされています。当院では、半導体検出器を搭載したフルデジタル装置を導入し、画像劣化のない高精細な画像の取得、FDG集積量を表す定量値の精度や信頼性の向上、検査時間の短縮に役立っています。

「全身ドック」は、所要時間が約3時間、料金102,300円(税込)と少し高額ですが、検査当日に専門の医師から結果説明を受けることができます。休日ドックの場合、PET/CTは別日(平日)に実施していただきますが、**PET/CTのみを予約することも可能です**ので、お気軽にお問合せください。

当院の人間ドック基本コースは、基本健診、眼底カメラ、腫瘍マーカー、診察を含み、必要な場合は紹介状を作成します。他のオプションや料金についてはHPでご確認ください → <https://hdrs.med.shimane-u.ac.jp/index.html>。

皆様の健康維持とがんの早期発見のため、この機会にPET/CTによる「全身ドック」をご予約してみたいはかがでしょうか。



図. PET/CTの外観、正常者の画像

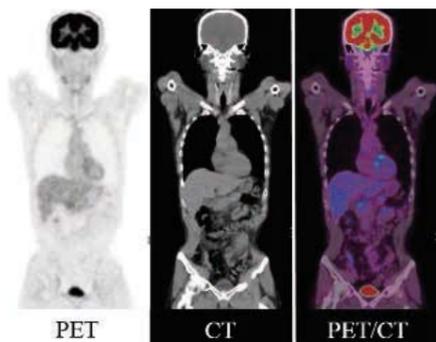


表. 当院で実施している人間ドック

	共済ドック	休日ドック
対象	文部科学省共済組合員とその扶養配偶者	島根県医師会・島根県歯科医師会の会員
2021年度の実施予定日	6月29日～2022年1月25日の火曜日(詳細は申込時にWEBでご確認ください)	8月22日(日)、10月3日(日)、11月28日(日) ※PET/CTは別日(平日)に実施
予約方法	病院HP人間ドック予約受付サイトから	医師会・歯科医師会にご案内させていただく申込書に記入後FAX
お問合せ	dock@med.shimane-u.ac.jp 0853-20-2559(留守電対応)	同左

PET/CTに関するお問合せ先 放射線部核医学検査室 TEL:0853-20-2438



# ご報告

## 経鼻内視鏡手術について

耳鼻咽喉科 診療科長 教授 さかもと 坂本 達則 たつり

かつての副鼻腔の手術というと、歯茎(歯齦部)を切開して上顎洞前壁を開窓する手術でした。現在は、特別な理由がない限り経鼻内視鏡(図)を用いた手術を行うことが主流です。内視鏡を用いることによって、低侵襲になる、すなわち術後の痛みや顔面のしびれ・変形を予防するという効果があったばかりでなく、前頭洞や蝶形骨洞のような手術困難な部位に対しても十分な手術を行うことができるようになりました。さらに、鼻副鼻腔の腫瘍や側頭下窩、頭蓋底の病変なども、経鼻内視鏡で対応できるようになってきています。

当科では最近1年間で66例に対して126件の経鼻内視鏡手術を行いました(表)。その中で、最も多く行ったのは内視鏡下鼻・副鼻腔手術(ESS)です。また、口腔外科とは眼窩吹き抜け骨折に対する手術を、脳神経外科とは経鼻下垂体手術を合同で行っています。

これからも、低侵襲、かつ高度な手術が行える、経鼻内視鏡手術を積極的に行って参ります。

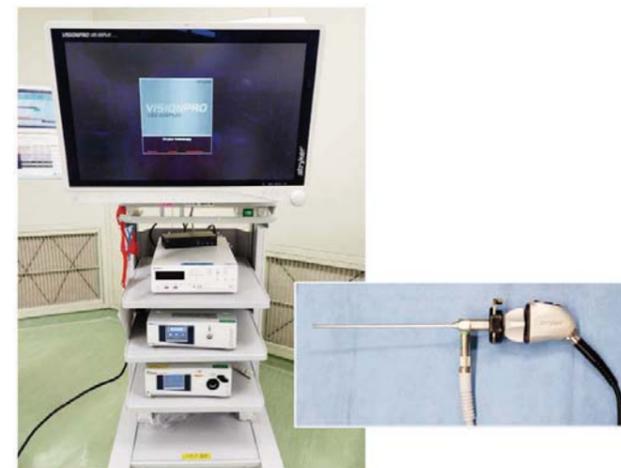


図 経鼻内視鏡装置

術式	件数	
ESS(副鼻腔炎・副鼻腔のう胞手術)	64	
下鼻甲介手術	19	
鼻中隔矯正術	20	
外鼻形成術	1	
鼻副鼻腔良性腫瘍摘出術	6	
鼻副鼻腔悪性腫瘍摘出術	1	
ふきぬけ骨折手術	5	歯科口腔外科と合同
視神経管骨折開放術	1	
経鼻下垂体手術	4	うち3件は脳神経外科と合同
翼口蓋窩腫瘍摘出術	1	
動脈性鼻出血止血術	4	
合計	126	

表 経鼻内視鏡手術件数

問合せ先 耳鼻咽喉科 外来 TEL:0853-20-2390





# ご報告

## 皮膚科における 難治性皮膚悪性腫瘍治療の取り組み

皮膚科 病棟医長 助教 おおた まさたか  
太田 征孝

島根県における、院内がん登録報告書 2019 の皮膚悪性腫瘍の総登録件数は 170 件でした。皮膚科診療を行っている県内 10 施設の中で、島根大学医学部附属病院皮膚科の登録数は 69 件。県内で最も多くの皮膚悪性腫瘍症例の診療に携わっています。

皮膚悪性腫瘍は根治切除可能な早期の状態を受診されることが多いのですが、中には悪性度が高く進行の急速な症例に遭遇する事も少なくありません。皮膚悪性腫瘍の頻度の高いものとして、基底細胞癌、有棘細胞癌、悪性黒色腫、乳房外パジェット病が挙げられます。

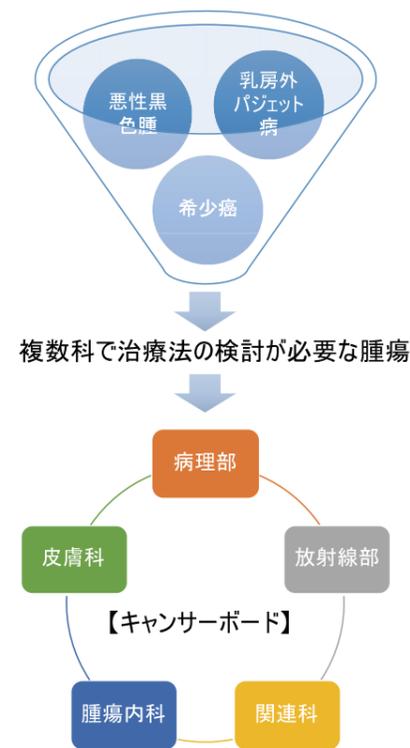
上述した頻度の高い皮膚悪性腫瘍の治療についてはガイドラインが作成され、有効性の高い治療などの提言がされていますが、それ以外の皮膚悪性腫瘍に関しては定まった治療がなく、腫瘍の性質や患者さんの状態に合わせた個別の治療法を決めていく必要があります。

当院皮膚科においては、難治性で頻度の低い皮膚悪性腫瘍に対し、科内で治療方針を検討した上で、関連する診療科（病理部：診断、腫瘍内科：化学療法、放射線治療科：放射線療法、外科：腹腔内リンパ節郭清など、形成外科：再建）と連携し、院内悪性腫瘍カンファレンス（カンサーボード）において患者さんに合わせた適切な治療方針を決定しています（図）。

また、全国的にはまだ皮膚科領域での普及は少ないのですが、今後発展が予想されるがん遺伝子変異に併せた治療（がんプレジジョンメディシン）に関しても、必要な患者さんが利用できるよう準備を進めています。

問合せ先 皮膚科 医局 TEL：0853-20-2210

図 治療方針決定までの流れ



# ご報告

## 色が異なる手術用手袋の二重装着標準化 —安全な手術医療のために—

手術部 看護師長 たけした じゅんこ  
竹下 純子

手術医療において、手術用手袋は患者さんと手術室で働く医療者の感染リスクを軽減するために使用されます。しかし、手術中にはメスなど鋭利な器具で手袋が破損しやすく、また製造過程により、新しい手袋でも一定の割合でピンホールが存在すると言われております。そのため 2010 年頃より、手術部位感染（SSI）



予防及び血液媒介病原菌への汚染による職業感染の防止のために手術用手袋の二重装着が推奨されはじめました。

国公立大学附属病院感染対策協議会「病院感染対策ガイドライン」によると、「手術用手袋は二重装着が望ましく、内外で色の異なったインディケーター手袋の使用も考慮する」とあります。内側と外側で異なる色の手袋を装着することによって、色の違いから穿孔に気づきやすくなる利点があるからです。全国ほとんどの病院において手袋の二重装着が進まない中で、当院手術部では 2020 年 7 月にほぼ全ての診療科の医師と器械出し看護師は、青色のサージカルアンダーグローブの上に白色のサージカルグローブを装着する二重装着（写真）へと変更しました。

さらに、従来から手術用手袋はラテックスを含む天然ゴム製品が主流でしたが、全身麻酔中にラテックスアレルギーが発生しても患者さんが自覚症状（気分不良、かゆみ、呼吸困難など）を訴えられず、覆布で覆われ皮膚を観察しにくいため発見や対応が遅れる恐れがあるとされてきました。また長期間に渡りラテックス製品を使用し続ける医療者はラテックスアレルギー発症のハイリスクグループとされており、したがって当手術部では、合成ゴム製品（ポリイソプレン製）の色の違う二重手袋を標準使用としました。

このように当手術部は、手術を受ける患者さんへの安全な手術医療及び手術を担う医療者の安全を常に配慮しております。



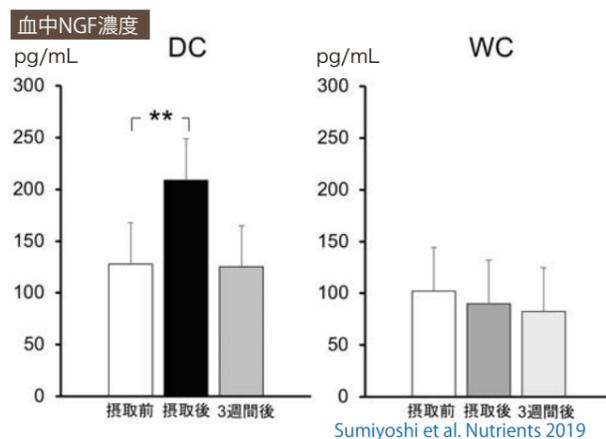


# ご報告

## 高カカオ含有ダークチョコレート摂取が ヒトの認知機能に与える影響

生理学講座 環境生理学 助教 すみよし 住吉 えり  
教授 紫藤 しょう おさむ 治

近年、高カカオ含有チョコレートが注目されており、それら摂取の様々な生体機能への効果が研究されています。カカオにはメチルキサンチン誘導体の一つである「テオブロミン」が多量に存在します。私たちはテオブロミンの経口摂取がラットやマウスの認知機能を改善することを示唆してきました。ここでは、ヒトを対象としたテオブロミンを多く含む高カカオ含有(70%)ダークチョコレートの認知機能への効果を紹介します。



若年健常者(20~31歳)20名を対象とし、ダークチョコレート(DC)摂取群(24.0g/日)とカカオを含まないホワイトチョコレート(WC)摂取群(24.5g/日)の2群に分け、30日間、毎日チョコレートを摂取してもらいました。摂取期間の前後において二種類の認知機能テストを行い、記憶・学習形成に重要とされる神経成長因子(Nerve Growth Factor: NGF)の血中濃度を測定しました。またチョコレート摂取終了の3週間後にも同じ測定を行いました。

その結果、DCの摂取により認知機能テストのスコアが有意に改善しました。チョコレート摂取期間終了の3週間後にもこれら改善が継続していました。また、血中NGFはDC摂取により有意に増加し、WC摂取は認知機能テストのスコアや血中NGF濃度に影響しませんでした。

これら結果は、高カカオ含有DCの摂取がヒトの認知機能を改善すること、さらに、その効果がDC摂取終了後も一定期間継続することを示唆します。DC摂取による血中NGF濃度の上昇が記憶・学習形成の促進に寄与するかもしれません。



# お知らせ

## 7月28日は世界肝炎デーです 新聞広告・ラジオ放送で啓発活動を行います



肝疾患相談・支援センター センター長 とびた ひろし  
飛田 博史

7月28日は世界肝炎デー(7月26日~8月1日は肝臓週間)です。

当院は島根県肝疾患診療連携拠点病院として指定を受け、肝疾患に関する医療情報の提供、相談、講演会等を行ってきました。

この度、2021年度肝炎対策事業の一環として、当センターで医師向けの啓発リーフレット(図1)を作成し、島根県医師会様から会員の先生方に配布していただきました。現在会員の先生方に、肝炎ウイルス検査啓発活動のご協力をいただいております。

また、世界肝炎デーに合わせて啓発広告(図2)を制作し、山陰中央新報(7月24日・28日)に掲載を予定しております。その他に啓発ラジオCM(肝臓週間に随時放送予定)とラジオ番組(図3)(7月28日に放送予定)を制作し、エフエム山陰で放送する予定です。ぜひご視聴ください。

この度の啓発活動を通して、一人でも多くの方がB型C型肝炎ウイルス検査を受検し、陽性者の受診と受療に結び付けられればと考えております。当センターとしましても肝疾患患者さんの悩みを解消できるよう、引き続き努力してまいります。

今後も肝疾患診療連携拠点病院の活動に、ご理解ご協力の程よろしくお願いたします。

問合せ先 肝疾患相談・支援センター TEL: 0853-20-2721 ksb30@med.shimane-u.ac.jp

図1 図2

図1: B型・C型肝炎ウイルス検査啓発リーフレットのイメージ。症状がないまま肝硬変・肝がんへ進行する可能性があることを示し、肝機能検査が正常でも病気が進行している場合があることを説明し、未受検の方には必ず肝炎ウイルス検査を勧めている。

図2: 新聞広告のイメージ。7月28日は世界肝炎デーです。B型・C型肝炎ウイルスは、肝硬変・肝がんへと症状がなくても進行する可能性がある。検査を怠ることがないよう、生体一度は必ず肝炎ウイルス検査を受けよう。島根大学医学部附属病院 肝疾患相談・支援センター 電話 0853-20-2721 受付時間 9:00~16:00

図3

周波数

松江局	77.4 MHz
浜田局	86.6 MHz
大田局	82.1 MHz
邑智局	80.7 MHz
石見大和局	86.9 MHz
羽須美局	87.3 MHz
隠岐局	82.7 MHz

番組名 高田リオンのGO-! EVENING!

放送日時 7/28(水)18:15頃

